新技術、デジタル印象（歯形取り）で高水準なラクラク歯科治療

「デジタル印象」（歯型取り）で快適かつ正確に歯型が取れます。

歯科医院で歯型を取ったことはありますか？ヌルヌルとした冷たい粘土やゴムを口の中に入れて、〝パッコン〟と取るアレです。5分ぐらい動けないし、ゲホゲホとなって息も止まりそうですよね。しかも、パッコンと取るとき、歯が抜けそうで怖いですよね。この歯型取りも、今ではＩＴでできるようになりました（図1・2）。まずは口の中に小型のカメラ（口腔内スキャナー）を入れて、歯をスキャンします。コンピュータで画像を3次元構成し、デジタルデータとして出来上がります（図3）。もう〝ヌルヌル＆ゲホゲホ〟とはお別れです。

今までの歯型の取り直しでは、2回も3回もヌルヌルを我慢したり、ゲホゲホに堪えたりと大変な思いをすることがありました。しかし、デジタルでは取りたいところだけ取り直し、デジタルデータを重ね合わせることが可能です。

デジタル化でより高いレベルの歯科治療が期待できます。

今までは「ちょっと膨らんでいる」と伝えていた症状を、「デジタル印象」では「横に0.32㎜、22.5の角度で膨らんでいる」と正確に表現できます。また、エックス線のデータとも重ね合わせることができ、骨の上に歯茎がどのように付いているかを3Ｄで診断することが可能です（図4）。データの長期保存ができるので、術前術後・数年後・数十年後のデータ比較も簡単。歯の色もデジタル化できます。

デジタルデータは、インターネットを介して技工所（被せ物を作る工場のようなところ）に送ります。歯科医師と技工士がディスカッションをしながら、パソコン上で被せ物を作ります。優秀な技工士さんが歯科医院にいちいち出張することも不要になり、より良い被せ物を効率良く作ることができるのです。

歯科治療のＩＴ化、ＡＩ化はどんどん進んでいます。皆様の口腔健康の向上に一役も二役も担うことになるでしょう。デジタル印象（歯型取り）については、ぜひお気軽に専門家にご相談下さい。

※高度先進医療は保険外診療になることがあります。

図1
▲口腔内スキャナー（手前）がパソコンと連動。パソコン上に出たデータを見ながらスキャンする。

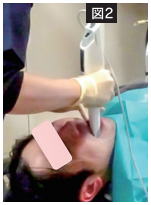
図2
▲口腔内をスキャンしているところ。従来の粘土やゴムでの型取りは不要になる。

図3-b

図3-a
▲aは口の中の写真、bはスキャンした画像データ。口の中を正確にデータ化している。

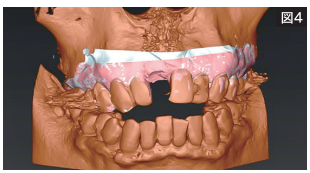
図4
▲CT画像での顎骨、歯（茶色）と粘膜のスキャンデータ（白とピンク）を重ねたところ。骨と歯茎の状態を正確に診断できる。

医療法人
くらのうえ市丸歯科
院長 市丸 英二先生

長崎大学歯学部大学院卒業後、米国スタンフォード大学医学部研究員を務める。長崎大学臨床教授、日本歯周病学会認定専門医・指導医、日本口腔インプラント学会インプラント専門医として活動中。

TEL.0942-81-5410
住／鳥栖市蔵上2丁目187番地　URL www.10shika.jp